野口昌剛（まさたか）の難病認定を求める署名

長崎市勝山町に住む野口です。息子の昌剛（二十二歳）が小学校のころからひざの靭帯（じんたい）に抱える原因不明の症状を治そうと、本格的な医療研究と難病認定を国に働きかけています。

昌剛は、ダウン症を抱えて生まれました。一九九四年にひざの外側に痛みを覚え曲がらなくなり、五度の手術を受けましたが悪化し、現在、両ひざが外を向き車椅子利用を余儀なくされています。

一九九七年、県立こども医療福祉センター（当時県立整肢療育園）の所長が「腸脛（ちょうけい）靭帯短縮症」と診断しましたが、世界保健機関（WHO）作成の国際疾病分類には載っていません。すなわち世界にひとつの症例です。医学界には「ルール・オブ・スリー」という常識があり、最低三人の同一症例を掌握しないと調査研究への動きがありません。このため、昌剛は難病に認定されないまま、原因不明の病気で苦しんでいます。そこで、次の事項を求めます。

一、国において調査研究を行うこと。　一、難病の認定を行うこと。　一、病名をつけること。

【お問合せ先】　〒850-0028　長崎市勝山町七番地グランドハイツ勝山四〇一

野口昌剛・美佐恵（母親）

TEL〇九五-八二〇-八四五五

厚生労働大臣　様

氏名	住所